

特別企画「新学会の展望」SP1-1 新学会—日本高気圧潜水医学会—の展望

柳下和慶

日本高気圧潜水医学会 代表理事

2024年4月に2学会が合併し、新たに一般社団法人日本高気圧潜水医学会としての歩みをスタートした。旧2学会は学会目的や活動内容、また学術集会での発表内容や学術誌の論文内容も近似しており、専門医専門技師の資格制度整備の面からも、1学会となることが望まれ、1学会は必然だったと考える。

何より多くの学会員が一つに集まることは、新たな可能性の広がりとなるだろう。幅広い学術専門家が集まり研究の広がりや深化が期待され、臨床現場で活躍する臨床工学技師や看護師、そして医師の多職種関係者が全国的に連携し、共通認識が深まり情報交換が活性化し、高気圧酸素治療の質や安全管理の内容も高まるだろう。専門医専門技師資格が一つになることから連携強化につながり、医育機関関係者も増え、学生も含めた教育の広がりも期待される。高気圧酸素治療や潜水医学は横断的かつ学際的な領域でもあり、他学会との連携も重要であり、本学会以外の学会との連携強化の可能性も広がる。また、社会的な活動強化も期待され、高気圧酸素治療が抱える社会的諸問題を全国の関係者のコンセンサスとして取り纏めることがより可能となり、社会への的確な情報発信や政策提言の実現も近くなるだろう。

1996年以来高気圧酸素治療の重大事故がない中、高気圧酸素治療と類似する環境変化による健康器具が拡大傾向の背景も相まって、安全対策の強化は極めて重要な課題である。ひとつの事故で高気圧酸素治療の世界は一瞬にして失われ、またそのリスクは間近に迫っていることを再認識し、学会として安全対策の強化を進める必要がある。具体的には、高気圧酸素治療の安全基準の周知徹底、多職種による高気圧酸素治療のリスク教育、リスク低減のための対応策や事故予防策の立案と実施、事故発生時対応の整理と訓練の実施、安全管理体制の構築、教育集会・専門医研修講座・安全セミナーなどの安全管理、安全教育の機会拡大、資格取得や資格更新における安全管理・安全教育への比重増などが考えられる。このため、2024年6月より安全対策委員会内に新たに看護師安全対策ワーキンググループ(WG)、HCC (health care chamber, 健康気圧装置) 検討WGも設置し、安全対策委員会、高気圧酸素治療技術部会とも共同して活動を強化したい。

臨床工学技士に対する高気圧酸素治療の教育については、重大な局面を迎えている。近々では臨床工学技士養成

学校の教育カリキュラムから、高気圧酸素治療が必須要綱から除外され、高気圧酸素治療を知らない臨床工学技士が増加している。安全な治療のためにも卒後教育の重要性が高まっており、学会による卒後教育の期待と責務は大きくなっている。

もとより学会の基本は研究学術活動にある。高気圧酸素治療ではsham群設定からも二重盲検試験が困難な背景はあるものの、臨床的な問いは多数にそして多彩にあり研究テーマは多く残っている。学会主導の多施設研究など、高質な研究に向けた取り組みを行いたい。併せて学術誌の充実も求められるだろう。

学会の英語名をJapan Undersea and Hyperbaric Medical Society (JUHMS)としたことで、国際的代表的学会であるUndersea and Hyperbaric Medical Society (UHMS)との距離もより近くなり、海外交流の活発化による本学会の活性化も期待される。

地方会との連携も重要である。地方会学術集会参加単位を4単位から8単位にするなど地方会との連携の重要性を共有し、関係者のネットワークの強化につなげたい。

新学会が高気圧酸素医学と潜水医学関係者の活躍の場となること、そして高気圧酸素治療が安全に実施され学術活動が活性化することを目指し、新学会は大きな一歩を踏み出した。